

令和4年度（2022年度） 東保育所拠点事業報告

《東保育所》

I. 事業総括

＜保育方針＞

- 一人ひとりの子どもの育ちを支える保育に努めました。
(現在をもっともよく生き望ましい力の基礎を培う保育を目指しました。)
- 保護者の子育てを支えるように努めました。
(保護者の意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し、援助することを目指しました。)
- 子どもと子育てにやさしい地域作りに努めました。
(地域とのふれあいや連携を図ることを目指しました。)

II. 事業目標に対する評価

1. 利用者サービスの充実

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	非認知能力の育成	—	—

保育所保育指針に基づいて、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の各領域に沿って、子どもたちが自分らしく過ごしていけるよう保育を行ってまいりました。保育士が子どもを一人の人間として尊重し、自己肯定感を高めて行けるような関わりや関係作りを目指しました。また、指針に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を最終目標と捉え、遊びの中で子どもの豊かな感性と表現する力を伸ばしていくよう、非認知的能力の育成に努めました。新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた活動が経験できにくい状況ではありましたが、工夫し形を変えて出来る限り取り組めるように配慮いたしました。ただし、非認知能力は日常の保育を通じて育まれるものなので数値は示しません。

2. 地域社会との関係性強化

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	地域との関係性強化	—	—

地域に育まれる保育所として、地域の方々との交流を進め、保育所でなければ体験できない貴重な場を提供していこうと考えておりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収まらず、交流事業を控えることとなりました。交流が

徐々に出来るようになり、改めて地域との関わり大切さを感じております。数値は掲げておりませんが、これからも地域との交流を大切に、引き続き取り組んで参りたいと思います。

3. 生産性の向上

KGI(最重要目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	人時生産性	2.00 千円	2.32 千円
	労働生産性	3,815 千円	3,741 千円

人時生産性は、時間管理に努め指標値をクリアしました。労働生産性は計画の人員体制を整えることができませんでしたが、収益が計画値を上回り、指標値をクリアしました。

III. 計画事業の総括

1. サービス事業への取組み

保育所全体で子どもたちを支え、また、保護者を支援していくために、クラスの様態や子どもたちの様子を会議などで話し合い、情報共有しながら、関係作りに努めてまいりました。乳児期では、一人ひとりの気持ちや体調に配慮し、安心して過ごせるような環境作りを心掛けました。そして、一人ひとりに合った生活を提供するため、職員間での連携を図るようにしました。子どもたちが自分を大切に思えるような言葉掛けを意識して気持ちに寄り添い、前向きに生活していくことを目指しました。支援の必要な子どもに対しては、子どもたちが心地よく過ごすために、どのような配慮が必要であるのかを常に考えながら保育を行ってまいりました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、行事などの縮小や中止もありましたが、SNSやICTシステムを活用し、様々な活動の様子を保護者に発信してまいりました。時間を気にせず直接やり取りできる連絡帳機能も保護者との関係作りに役立っております。

2. 人材育成への取組み

今年度もコロナ禍の為、外部に出掛けての研修は実施できませんでしたが、オンラインを利用し研修を受ける体制を整えました。

法人内のマネジメント研修では、職員一人ひとりとの関係性作りの必要性、フィードバックミーティングの重要性を学び、職場の雰囲気や働きやすい環境を整えると共に、気持ち良く働くにはどうすればよいかを考える機会を与えていただきました。これからも絶対ルールを唱和し、意識統一に繋げていけるよう取り組んでまいります。

3. 地域との関係強化への取組み

コロナ禍の為、十分な交流はできませんでしたが、小康状態の時には感染対策を取りながら、ボランティアの受け入れを実施しました。職員間で様々な対策を話し合いながら進めることで、改めて交流の重要性に気付くことができました。また、SNSを利用してインスタグラム発信を行い、地域への情報提供に繋げるよう努めました。

4. 生産性向上への取組み

- ・ICT化の導入に併せ園内で研修を行い、各クラス担任がシステムを円滑に利用することが出来るようになりました。また、使用されていなかった機能についても、意見を出し合い活用に結び付けてきました。事務作業の効率化を目指す中で、更なる時間の有効活用が出来るようになって考えております。
- ・東保育所は発達促進児や障害児保育事業があり、その中で生産性の向上を目指すためには職場の働きやすい環境作りが重要であると考え、会議などを通して業務改善に取り組んでいます。

5. 施設整備への取組み

事業計画に掲げた施設設備事業は、コロナ禍の影響で実施時期がずれ込んだ計画もありました。固定遊具は腐食部分を修繕して安心安全に遊べるように致しました。計画外の整備として、新型コロナウイルス感染対策の補助事業により、補助金を活用して感染予防対策設備や感染予防物品を購入し感染予防対策に取り組みました。

令和4年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

【サービス事業】

1. 利用者（入所者）状況

(1) 利用率・稼働率

定員数	計画数	実績	利用率・稼働率(KPI)
60名	65名	66名	110.0%

(2) 利用者構成状況

年齢別クラス	計画数	実績	差異
0歳児	6名	6名	—
1歳児	12名	12名	—
2歳児	11名	11名	—
3歳児	10名	10名	—
4歳児	9名	9名	—
5歳児	17名	18名	+1名
計	65名	66名	+1名

2. 実施サービス

計画上の事業	実施した内容・成果等
<p>《養護》</p> <p>生命の保持</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔で安全な環境を提供しました。今年度も、新型コロナウイルス感染症の予防のため、子どもたちが手にする物の消毒や室内の換気を行い、密にならないよう考えると共に、コミュニケーションが取りにくいことで、子どもたちに不安を与えないよう接し方を考えたり、子どもたちの気持ちに寄り添いながら関わりました。 ・年齢に応じて、自分の身の回りの事を自分で行うよう適切な支援を行い、生活習慣の確立に努めました。
<p>情緒の安定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児期の愛着形成の時期にゆったりと関わりが持てるよう努めてきました。スキンシップによって愛されているという自覚を持ち、安心して過ごしていけるよう心掛けました。 ・幼児には常に肯定的な言葉掛けをし、自己肯定感を高めたいけるようにしました。保育士との関わりだけでなく、子ども同士の中でもお互いを認め合えるよう見守り、支援していく努力を重ねてきました。子ども一人ひとりの個性を認め、葛藤しながらも丁寧な関わりを目指し、成長に繋げていきました。

人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナが小康状態の時にはクッキングを行い、調理師と保育士が共に子どもたちと関わり合い、食に関する興味や意欲を高めました。 ・保護者にとって食に関する悩みは多く、調理の職員と共に保護者と懇談することによって、お互いに情報を共有し信頼関係を深め、少しでも子どもの成長に繋がっていけるよう努めました。 ・人とのつながりを大切にし、安心して過ごしながら愛着を深めていけるような関わりを心掛けました。 ・乳児期は保護者と離れた不安から泣くことが多くなる子もいますが、ゆっくり丁寧に関わり、一人ひとりを受け止めることによって、安心して過ごすことが出来るようになりました。 ・幼児期はたくさんの人と接する機会が増え、自分とは違う思いや行動に戸惑うこともありましたが、保育士の丁寧な対応によって、どう考えどう行動するか学び、お互いに気持ち良く過ごす姿に心の成長を感じています。 ・異年齢児の交流はコロナ禍では難しく、残念に思っていますが、何気ない日々の生活の中に年上の子が年下の子のお世話をする機会を作ることで、必要とされている喜びを感じ思いやりの心を育てることができました。
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全に過ごすことが出来るような環境の提供を行いました。乳児でも伸び伸びと遊ぶことができるよう、考えられる危険個所を日々点検し修繕を行いました。守られている環境で探索活動を行うことで発見や共感に繋がっていき、新しい活動に向かうことが出来るよう見守りました。 ・社会事象や自然事象への興味関心が高まるような言葉掛けを行い、活動を取り入れるよう努めました。季節の移り変わりを園庭や周囲の自然から感じる事ができました。 ・お茶会では静の活動を通して相手を気遣う心や物を大

<p>言語</p>	<p>切に扱うこと、決まりを守る体験を通して、心の成長を育みました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの優しさ溢れる言葉掛けを通して言語の獲得を目指しました。楽しい雰囲気の中で周囲の人との関わりを深め、言葉の獲得へと繋げることができました。 ・絵本や紙芝居を通し言葉のやり取りの楽しさを伝え、言葉によって人との関わりを増やし、人間関係の形成に努めました。 ・幼児期には伝えるだけでなく、相手の思いを聴くことの大切さも伝えていき、待つことができるよう支援していききました。お互いに思いやりながら言葉のやり取りを多く行うことで相手への理解に繋げました。 ・言葉への興味から字や数字への関心に繋げていき、耳からだけでなく目からも、相手の思いを感じられる喜びを持たせていくよう努めました。
<p>表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な表現と豊かな感性を育てるために常に表情豊かに接し、一緒に喜び一緒に悲しみ共感しながら思いを共有していくことに努めました。 ・リトミックや音を使つての遊びから、体を使つて自由に表現する楽しさを伝えていききました。自分らしい楽しい表現が出来る喜びを伝えたいと思っております。伸び伸びと表現する姿は保育士にとっても嬉しいことです。 ・アートデーはコロナ禍により中止になることも多かったです。自分らしく表現する時間は子どもたちにとってよい刺激となり、自分を認めてもらう大切な時間となっています。
<p>《災害時の備え》</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練計画に沿って、毎月一回実施いたしました。防災頭巾やヘルメットの着用もスムーズに行えるよう装着の仕方についても考えました。 ・防災マニュアルを基にシュミレーションを行い、職員間で役割分担を確認すると共に改善点を話し合いました。 ・備蓄管理も問題なく行っております。

《特別保育事業》 障がい児保育	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関との連携を密にし、その上で保護者と丁寧に関わり様々な思いや悩みを受け止め、支援してきました。相談しやすい環境を提供することで、関係機関に繋げていくパイプ役となるよう努めました。保育所内でも情報を共有し、接し方や対応の仕方など常に話し合ってきました。
保護者の子育て支援を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の気持ちに寄り添い、必要に応じて随時懇談を行い、不安が少しでも和らげるよう心掛けました。 ・保護者全員と懇談をし、共通理解を持って子どもたちの成長を見守ることができました。
《その他の行事》	<ul style="list-style-type: none"> ・年間行事計画に沿って行いました。コロナ禍のため日程の変更はありましたが、夕涼み会は保育所内の行事とし、運動会は感染対策をして行いました。お楽しみ会は日程の延期が続き、保護者の前での発表は叶いませんでしたが、SNS 配信を利用して舞台裏や一人ひとりが輝いている表情を送り、ひと味違う楽しさや喜びを感じてもらえたのではないかと思います。

3. 人員体制の状況（常勤換算）

（単位：人）

役職名	計画		実績		差異	
	正職	非正職	正職	非正職	正職	非正職
所長	1		1			
主任保育士	1		1			
保育士	6	8 (6.0)	5	10 (6.4)	-1	+2 (+0.4)
子育て支援員		3 (2.2)		2 (2.0)		-1 (-0.2)
保育補助						
調理員	1	4 (1.4)	1	4 (1.4)		
環境整備員		3 (0.4)		3 (0.4)		
計	9	18 (10.0)	8	19 (10.2)	-1	+1 (+0.2)

正規職員の体調不良による退職や常勤保育士が12月に産休に入り、また発達障がい児の成長と共に職員体制の強化を図る必要がありました。常勤保育士の確保はできませんでしたが、子育て支援員の保育士免許取得、子育て支援員の常勤雇用やパートの増員、パート職員の日数を増やす等職員配置数を確保し

たため保育に支障はありませんでした。

【人財育成事業】

(1) 事業所内研修(石見さくら会石見保育研究会)

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
調理担当者研修	調理師 調理員		・感染対策のため、中止となりました。
保育研修			・感染対策のため、中止となりました。
救急法講習会	全職員	14名	・パートを含み2週にかけて全職員で身近な救急法を学び、緊急時の対応について共通理解を得ることができました。
防犯訓練	全職員		・感染対策のため、中止となりました。
年齢別、主任、調理師話し合い(隔月)	全職員	8名	・保育所間で情報共有を行い、保育所同士の学びの場となりました。食育プロジェクトの話し合いでは体幹について学び、共通意識をもって食育活動に取り組むことができました。

(2) 事業所外研修(外部派遣研修)

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
邑智郡保育研究会			
邑智郡保育研究会 記念講演	全職員	13名	・山田眞理子氏の講演Ⅲ「グレーゾーンの子ども」についてリモートにて学び、保育実践に活かしました。
研究大会	全職員	11名	・リモートにて鈴木翼氏による「わくわくコンサート」にて手遊びレク遊びを学び、保育に活かしました。
調理担当者研修	調理師 調理員	2名	・浦田ちひろ氏による「乳幼児の健康と栄養」についてリモートにて学び、栄養や衛生管理について新たな知識が得られました。
島根県保育協議会			
福祉職員キャリアパス対応生涯研修	保育士	1名	・チームリーダーとしての自己成長やリスクマネジメントなどについて学

【チームリーダーコース】			び、職員間のコミュニケーションの在り方やリーダーの役割や行動など、様々な気づきや学びが多く得られました。
保育士スキルアップ研修会	保育士	1名	・聴く力、話す力が読み書きに繋がるよう、絵本の言葉を五感で感じ、言葉の発達に繋げていくことの大切さを学び保育に活かしました。
保育士キャリアアップ研修 【幼児教育】	保育士	1名	・体調不良により不参加となりました。
キャリアアップ研修【食育推進】	調理師 調理員	2名	・リモートにて子どもの食について学び、調理と保育士との連携の大切さや衛生管理の確認が出来ました。
県主任保育士研修	主任保育士	1名	・園作りの課題や主任として知っておくべきことについて学びました。非認知能力を育てるために、発達過程、プロセスを充実させることが大切であると学び保育案に組み込みました。
県施設長研修	所長	1名	・人権擁護について学びました。学んだことを職員に話す機会を持ち、アンケートを行い、意識統一を図りました。
保育者研修	保育士		・感染対策のため、参加しませんでした。
・その他のキャリアアップ研修 ・中国大会			・感染拡大の影響により、参加できませんでした。

(3) 事業所間研修

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
マネジメント研修	所長 係長	1名 2名	・職場での良い関係作りをどのようにして築いていくのか、また業務に反映し、働きやすい環境を作るにはどう行動していくのかを学びました。

			フィードバックミーティングの大切さを知り、常に行うことで人材育成に活かしていきました。
食習慣推進研修	全職員	3名	・食育については子どもの育ちにとって重要なこととしていますので、保育の中に取り入れて行きます
人権擁護研修	全職員	7名	・人権・権利擁護について理解を深め職場環境作りに活かしました。

【地域との関係強化への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等	KPI	KPI 実績
ボランティアの積極的受入れ	・コロナの小康状態の時のみの受け入れとなりました。お茶会、わらべうた、おはなし会を行いました。		良い交流が図られました。

【生産性向上への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等	KPI	KPI 実績
I C T化の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ I C T化の導入によって、間接業務の時間短縮に取り組みました。登降所の時間管理、保護者からの欠席連絡、個別連絡帳の記載、保護者への緊急連絡や身体測定の結果報告、日誌、ヒヤリハット報告書など様々な機能を活用しました。 ・ 保育所の様子を配信できるようになり喜ばれています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員数の削減 ・ 休憩時間の確保 ・ 直接保育業務の時間の増加 ・ 残業の減少 	休憩時間の確保や残業時間の減少には至っておらず引き続き取り組みます。

【施設整備事業】

実施した施設整備等	実施した内容等
遊戯室水銀灯を LED 照明に更新	・水銀灯の生産が終了しているため、LED 照明に更新しました。
タブレットの購入（業務効率化システム）	・事務所用とクラス用の 2 台購入を予定しておりましたが、市場の在庫不足のため、1 台のみ購入しました。

高圧気中開閉器更新工事	・比較検討ができる業者の選定に時間を要し、また工期も年度内は困難なことから来年度に持ち越しとなりました。
・誘導灯の更新 ・非常用照明バッテリーの更新	・冷陰極ランプの生産が終了しているため、LED ランプに更新しました。 ・バッテリーの耐久年数が超過しているため更新しました。
保育室と事務室コンセントの増設	・各部屋のコンセント数が不足しているため増設しました。
雨樋修繕工事	・雨樋の老朽化により破損している箇所を修繕しました。
洗濯機取付用給排水工事	・汚れた毛布やタオルケットの洗濯効率が悪く、専用の洗濯機を設置するため工事を行いました。
固定遊具の修繕 (木製ログハウス腐食部分の修繕)	・腐食が進んでいる箇所を修繕し、安全に遊べるようにしました。
・各クラス木製建具戸車の修繕 ・各の蛇口の修繕(8箇所)	・各クラスの引き戸の戸車が腐食しているため修繕しました。 ・蛇口の老朽化によりパッキングを交換しても水漏れするため修繕しました。
スマートフォンの購入	・園外保育時の緊急時に必要なため購入しました。
・玩具の購入 ・絵本の購入 (乳幼児用絵本の補充、自然観察や道徳性のある絵本、紙芝居の補充)	・破損した玩具や絵本の入れ替えや発達に必要な絵本や紙芝居を購入しました。
梅組の電子ピアノの購入	・オルガンの老朽化のため、電子ピアノに更新しました。
テーブル、食器類の購入	・生活に必要な備品があったため購入して交換し、園児が安全に過ごせるようにしました。
計画外の施設整備等	実施した内容等

ロッカーの購入	・新型コロナ感染予防対策のため、共同で使用していたロッカーを一人ひとり使えるよう補助金を活用しロッカーを購入しました。
---------	---

【積立の状況】

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
再建設	2,800	4,020
大規模修繕	300	402
その他	400	603
計	3,500	5,025

※施設整備等のため 1,475 千円の取崩を行っております。

収入は計画を上回り収益を確保することができました。

【感染症・災害への対応への取組み】

- ・感染症に関しては邑南町の判断を仰ぎ、幼児のマスクの着用や玩具などの消毒、換気の徹底により、感染防止に努めました。
- ・大規模災害BCPの役割分担について職員間で話し合い、防災マニュアルを基に災害が起きた時のシミュレーションを行いました。
- ・年間計画に沿って火災や地震の避難訓練を定期的に行いました。
- ・ICTシステムを利用し、保護者の協力を得て、スムーズに連絡事項が届くよう努めました。

IV. 苦情解決（要望含む）の結果について

令和4年度において、以下の苦情が寄せられ、解決を図りました。

【苦情1】

発生日：令和4年10月14日

申立者：2歳児の保護者

苦情内容：乳児用のトイレの入り口に置いてあるスノコの段差につまずき、頭を打ってたんこぶを作ってしまったことに対して、転ばないように対策を考えてほしいとの訴えがありました。

処理結果：スリッパの置く場所を変え、スノコを取り除いて段差をなくし、事故が発生しないよう、見守りを徹底することをお伝えし納得していた

いただきました。

第三者委員の関与：解決結果を報告済み

【苦情 2】

発生日：令和5年1月16日

申立者：5歳児の保護者

苦情内容：児童に新型コロナウイルス感染による濃厚接触者が確認されたため、12月に予定していたお楽しみ会を1月に延期にしていたが、延期した日も再び感染対策上行えず、止む無く中止のお知らせをしたところ、予定通り行ってほしいとの訴えがありました。年長児の保護者の中に同様の意見があるとのことで、保護者会長が代表して連絡されました。

処理結果：連絡をいただいた翌日、保護者会長と副会長にお越しいたいただき、年長児の保護者としての思いを聞かせていただきました。保育所としても同じ思いであることを伝えた上で、再び延期しても全員揃って実施することは難しいこと、保健課からの指示があったこととお話ししました。なんとか子どもたちの頑張りを見てほしいと職員間で話し合いを行い、案を出し合い、子どもたちが全員揃ったクラスからビデオ撮影をして、保護者の皆様に見て頂くこととお約束し、納得していただきました。

第三者委員の関与：解決結果を報告済み

以 上